

令和5年度 学校評価(自己評価)の集計結果と考察

令和5年1月15日(月)

1 調査の概要

- (1) 方法 質問紙法
- (2) 実施日 令和5年11月22日～12月8日
- (3) 対象

		対象	回答数	回収率
教職員アンケート		72	68	94.4%
外部アンケート	保護者	71	58	81.7%
	堀切地区	3	3	100.0%
	地域支援関係(保幼、小、中、高)	37	29	78.4%
	高等部生徒	29	23	79.3%
	学校運営協議会委員	7	6	85.7%

(4) 集計方法

回答は、A「そう思う」、B「だいたいそう思う」、C「あまりそう思わない」、D「全くそう思わない」の4段階とし、質問により記述欄(改善案等)を設けた。

(5) 分析方法

- 下記により、全体に占める、A・Bの回答の割合により分析。
- ・AとBの合計が全体の80%未満の項目は改善を要するものとする。
 - ・前年度分のAB回答が占める割合(%)と比較を行い、改善状況を考察する。
 - ・なお、従前からの点数化による平均値も算出・併記し、参考とする。

2 結果の概要 *()は前年度比

(1) 改善を要する(80%未満)項目 表: オレンジ色枠内

【教職員】	No,19 本校は、業務の精選、簡素化、効率化とスリム化を図り、業務改善を推進している:69%(+1%)*
【高等部生徒】	No,11 卒業後どのような進路があるか分かる:78.3%(+1.3%)
【高・保護者】	No,8 PTA活動は、活発に行われている:75%(-9.0%)
	No,9 学校は、学級通信などで保護者に必要な情報を伝えている:75%(-14.0%)

<参考>昨年度に改善を要するとされた項目

【教職員】	No,19 業務の精選、簡素化、効率化とスリム化による業務改善の推進:68%→(R5:69%)
【高等部生徒】	No,11 卒業後どのような進路があるか分かる:77%→(R5:78.3%)
【高・保護者】	No,5 学校は、お子様が楽しく学校生活を送るよう努めている:79%→(R5:90%)

(2) 昨年度より5%以上、上昇した項目は以下の対象項目である。 表: 黄色枠内

【教職員】	No,22 私は、校務処理の効率化と簡素化を図っている:89.7%(+7.7%)
【高等部生徒】	No,1 学校は、楽しい:95.7%(+7.7%)
	No,3 生活単元学習(行事や係活動への取組)で生活に必要な力がついている:91.3%(+7.3%)
	No,4 国語や数学で自分に必要なことを学べている:95.7%(+7.7%)
	No,7 部活動が、楽しい:89.5%(+5.5%)
【寄宿舍】	No,19 寄宿舍の先生たちは、病気やけがをしたとき、すぐ対応してくれる:100%(+12.0%)
	No,20 寄宿舍まつりや舎友会行事などの活動に満足している:88.9%(+7.9%)

<参考>昨年度、評価が前年度を5%以上上回った項目 *【R5年度の数値 *C・D評価者実数】

【高等部生徒】	No,2 作業学習や実習ではたらく力がついている:100%→【R5:95.7% *C:1名】
	No,12 学校の先生たちは、卒業後の進路や生き方について考える手伝いをしてくれる:100%→【R5:91.3% *C:2名】
	No,8 学校の先生たちは、悩みや相談など話をよく聞いてくれる:93%→【R5:95.2% *C:1名】
	No,9 「学校の先生たちは、いじめの問題があると、すぐ取り組んでくれる:96%→【R5:82.6% *C:3名、D:1名】
	No,18 寄宿舍の先生たちは、話をよく聞いてくれる:82%→【R5:84.2% *C:2名、D:1名】
	No,21 部屋や棟の仲間と楽しく過ごせている。」94%→【R5:94.7% *C:1名】

(3) 昨年度より5%以上、下降した項目は以下の対象項目である。 表：ピンク色枠内

【高等部生徒】	No,6 学級の仲間と楽しく過ごせている:87.0%(−9.0%)
	No,9 学校の先生たちは、いじめの問題があるとすぐ取り組んでくれる:82.6%(−13.4%)
	No,12 学校の先生たちは、卒業後の進路や生き方について考える手伝いをしてくれる:91.3%(−8.7%)
	No,15 学校の先生たちは、悪いところは注意してくれる:87.0%(−9.0%)

<参考>昨年度、評価が前年度を5%以上下回った項目

【教職員】	No,22 私は、校務処理の効率化と簡素化を図っている:82.0%→【R5:89.7% *C:7名】
【高等部生徒】	No,3 生活単元学習、行事や係活動への取組で生活に必要な力がついている:84%→【R5:91.3% *C:1名D:1名】
	No,7 部活動が楽しい:84%→【R5:89.5% *C:2名】
	No,14 学校の先生たちは、がんばったときほめてくれる:89%→【R5:87% *C:3名】 No,16 久慈拓陽支援学校に入って良かったと思う:92%→【R5:91.3% *C:1名D:1名】
【保護者】	No,7 学校はお子様や保護者の思いを尊重して進路指導を行っている:93%→【R5:94.8% *C:3名】 ※No,8 PTA活動は活発に行われている:90%(−4.0%)参考値→【R5:89.7% *C:5名D:1名】

(4) AとBの回答合計が100%の項目は下記のとおりである。

【教職員】	No,7 本校は、様々な災害から身を守る防災安全教育に取り組んでいる(+2.0%)
	No,9 本校は、児童生徒一人一人の希望と生きがいを大切にした自立と社会参加を目指している(±0%)
	No,12 本校は、久慈圏域の特別な支援が必要な幼児児童生徒の相談支援を進め、地域の中核となる人材を育てている。(±0%)
	No,15 本校は、学校評価の結果や学校運営協議会等の意見を取り入れ、本校の教育活動の改善を進めている(+4.0%)
【高等部生徒】	No,5 保健体育や芸術(音楽・美術)、特別活動や自立活動、総合的な探究の時間などで、自分に必要なことを学べている(+4.0%)
	No,13 学校の先生たちの話は、ていねいでわかりやすい(+4.0%)
【舎・高生徒】	No,19 寄宿舎の先生たちは、病気やけがをしたとき、すぐ対応してくれる(+12.0%)
【舎・保護者】	No,10 寄宿舎は、お子様の思いを尊重し、適切に対応している(±0%)
【学校運営協議会】	全項目。 (1)児童生徒主体の教育とICT等の活用個別の指導・支援適切さ、(2)食育・感染症対策と復興教育の充実、(3)進路実現へ向けた自立と社会参加の教育、(4)圏域への相談支援の適切さ、(5)学校運営協議会を受けての地域に根ざした学校づくり、(6)研修会の実施による専門性の向上とチームとして児童生徒への対応、(7)適切な学校経営、(8)学校経営計画の重点の適切さ
【堀切地区】	全項目。 (1)地域と協力する姿勢、(2)地域貢献度、(3)クリーン作戦等に関する環境美化貢献、(4)ふれあいセンター等の花壇整備と地域交流、(5)田屋町組御輿交流をもとにした地域交流活動、(6)寄宿舎まつり、避難訓練等と地域活動、(7)「海鳴」「堀切通信」等の広報活動
【地域支援】	No,4 本校の相談・研修支援の活用が、貴校の特別支援教育体制の充実につながっている(±0%) No,5 (該当園のみ)本校職員の園訪問等は、貴園園児の就学支援に役立っている(±0%)

<参考>昨年度の結果

【教職員】	・・・自立と社会参加を目指す、関係機関との連携ネットワークづくり、相談支援の地域中核、交流及び共同学習、ホームページ等情報発信、関係機関との連携、いじめ対策、いじめ研修の実施
【高等部生徒】	・・・働く力の身につけ、卒業後の進路・生き方指導
【舎生・保護者】	・・・児童生徒の思いの尊重と適切な対応
【学校運営協議会・堀切地区】	・・・全項目
【地域支援】	・・・相談・研修支援の活用、具体的な役立ち、各校の特別支援教育充実、就学支援充実

3 分析・考察等

(1)回収率

地域支援機関・高等部生徒は、他に比べ低くなっているが約80%の回収率となる。このことからすべてのアンケートにおいて、概ね回収できたと判断し、信頼性に足ると捉える。

(2)結果(改善を要する項目)

改善を要する項目(80%未満)は、4項目である。一つ目は【教職員】の「業務改善の推進」があり、次年度から引き続くものであった。二つ目は【高等部生徒】の「卒業後の進路への理解」があったが、前年比1.3%上昇した。三つ目、四つ目はいずれも【高・保護者】からの回答となり、「PTA活動の活発性」、「学級通信等での情報提供」であった。これらは、いずれも9.0%以上下降している。

(3)考察

①【教職員】の「業務改善の推進」については69%の肯定的回答であった。その一方で、「自己の業務効率化を図っている」には、90%が肯定的回答をしている。また、自由記述から、個々で努力しているものの「個人への業務の偏り」、「当番業務の多さ」、「そもそもの業務量の多さ」等のワードがみられ、業務量に関する負担感を感じていると推察する。これは、昨年同様の結果であった。今年度の要因の一つには、コロナ禍が明け、「行事復活に係る事前調査」、「新たな活動方法の模索」等に関する労力もあると考えられる。

→「行事精選」「会議」「校務処理」の見直し

「行事の精選統合及び内容の簡素化」、「ICT活用による業務効率化」、「学部・分掌業務業務内容・分担の見直し」、「個々の業務の平準化」、「業務簡素化のための引き継ぎ資料整理」、「各会議の効率化」に努める等、重要度を見極めつつ、できるところから改革を進める。

②【高等部生徒】の回答は、実習体験と自己実現へのイメージを具体化するような教育が求められていると考える。
→各生徒の長所と実習による経験を振り返る等、対話による進路指導の充実化を今後も継続したい。

③【高・保護者】の回答は、No, 8, No, 9ともに期待の表れと捉えられる。これは、「保護者同士の交流を深めたい」「学習状況への興味関心がある」と考えられる。
また、このほか自由記述には、進路指導に関して意見を聞いて欲しいとの思いがある。
→できる限り日常から対話の充実、HPを活用した学校活動の周知等の対応が考えられる。

④5%以上の上昇項目は、いずれの項目も肯定的回答が89%以上の良好な結果であった。特に、高等部生徒の項目において、90%以上が学校生活、部活動を楽しみにしていることが分かった。また、寄宿舎職員の迅速な安全対応、舎行事などには高い評価がみられ、生徒たちは満足していることが分かった。また、教職員は、働き方改革について積極的に取り組んでいる。
→今後も継続したい。

⑤5%以上の減少項目は、概ね80%以上のため、良好であるが、高等部生徒の項目に多く見られる。また、いじめに関する対応について満足度が13%程度下がっている。実数は、昨年度C:1名(計1名)であり、今年度はC:3名、D:1名(計4名)である。
→生徒同士の関係把握、これに起因する人間関係づくりのサポート的対応に継続して努める必要がある。

⑥地域からの本校に対する評価は、概ね高かった。
→さらなる発展に向けて、学校運営協議会委員等の意見も交えて、今後の学校運営を進めていく。

⑦自由記述は、「職員の児童生徒への丁寧な対応」、「職員間のコミュニケーションのあり方」に関して、改善すべき点があることが分かった。
→気持ちよく学習活動および業務を行うためにコンプライアンス遵守の意識醸成を今後も図る必要がある。

(4)まとめ

教職員の回答から働き方改革は、継続して進める必要がある。また、高等部生徒については、項目のほとんどに1~3名程度の否定的回答(C, D評価)があることを踏まえつつ、発達段階を考慮しながら、今後も丁寧な対応を継続する必要がある。保護者からは、全項目ほぼ90%以上の肯定的回答であるが、高等部のPTA活動の活発化、進路指導の情報提供など保護者の期待の表れと受けとめ、上記同様に丁寧な対応を継続する必要がある。

その他、学校運営協議会委員、堀切地区住民、地域住民は、全項目ほぼ100%の肯定的回答のため、外部からの期待に応えられている状況である。これについては、今後も継続していきたい。

一方で、高等部生徒のNo, 1「学校は、楽しい」、No, 3・4・5の「学習が生活に必要な力がついている」と実感していること、「寄宿舎の先生たちや舎生に対する病気や怪我等の迅速な対応」、「寄宿舎行事への満足感」を実感していることは、特筆すべき業務結果である。

保護者の総括項目としての「本校での学校生活に満足している」ことへは、98%以上が肯定的回答であることは、これまでの職員各位への評価であり、今後も努力していきたい。